

Q3: スタンダード版 利用期限切れで、使えない
 アップデートしたが、立ち上がらない
 インストール後 立ち上がらない

以下、マニュアル3章 システムインストールおよび初期設定に従い、操作願います。
具体的な設定方法は

2. スタンダード版利用 【Page3~5】

4. スタンダード版、CDフル機能版のアップデート方法 【Page8~9】

以下、マニュアル3章、4章の抜粋になります。
特に赤枠部が関連する箇所になります。

注意点

【利用期限切れ】

「マニュアル3章 Page8 スタンダード版、CDフル機能版のアップデート方法」

- ・Ver7.5.0以前のバージョンは期限切れになっていますのでアップデートしてください。
(次バージョン Ver7.5.2 期限切れは2019年3月31日です)
(Ver7.7.0以降は、期限切れ1カ月前通知機能を追加しました)

【アップデート】

「マニュアル3章 Page8 スタンダード版、CDフル機能版のアップデート方法」

- ・旧 Version をアンインストールしないと途中でエラーになります。
- ・書き換えていたパッチファイルがリセットされる場合
「マニュアル3章 Page4 ④ …パッチファイルの書き換え」を行う
- ・DB の設定がされていない
「マニュアル4章 Page2~4 ローカルデータベース」参照願います。
- ・プロキシ設定が正しくない
「マニュアル4章 Page2,3 ネットワーク接続」参照願います
- ・ユーザーデータファイル
ユーザーデータファイルは、アップデート前に必ずバックアップしてください。

【インストール】

- ・パッチファイルの記載内容を書き換える
「マニュアル3章 Page4 ④ …パッチファイルの書き換え」を行う。

グ対処が必要となる場合があります。

①「Java は最新のものではなく更新が必要なためブロックされました」⇒「今回は実行」

②「このページを再表示するには、以前送信した情報を再送信する必要があります」
⇒「再試行」

③「Java のバージョンは最新ではありません」⇒「→後で」

④「このアプリケーションを実行しますか」⇒「実行」

INTERGLAD Ver.7 のメイン画面が現れますが、INTERGLAD WEB 画面の下となりますので、メイン画面を上にして利用してください。

特に関連する箇所です（赤枠部）

2. スタンダード版利用

① パソコンの OS（オペレーティングシステム）確認

パソコン OS が 64bit 版か 32bit 版かを以下により確認します。コントロールパネルのシステムとセキュリティを開き、システム画面を開くと、システムの種類が 64 ビットオペレーティングシステム、あるいは 32 ビットオペレーティングシステムと表示されます。

② Java インストール

下記 Web ページより Java をパソコンにダウンロードしてインストールします。

http://java.com/ja/download/ie_manual.jsp

この場合、通常、パソコン OS にかかわらず Java Ver. 8 の 32bit 版（最新版）が導入されます。Java Ver. 7 までには ODBC データソースへのアクセス機能がありましたが、Ver. 8 にはこの機能がありません。従って、Java Ver. 8 使用の場合、ローカル DB（データベース）およびユーザー DB の使用ができなくなりました。そこで、INTERGLAD のフル機能利用のためには下記のサイトより Ver. 7（32bit 版）をインストールすることが必要となります。なお、Ver. 7 については Oracle 社のパブリックアップデートがすでに終了しています（2015.4）。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/java-archive-downloads-javase7-521261.html#jre-7u80-oth-JPR>

Windows x86 Offline: jre-7u80-windows-i586.exe

なお、このダウンロードは、画面の手順に従い、無償の Oracle プロファイルを取得し、設定したユーザー名、パスワードを入力して行います（わかりにくい場合には NGF 事務局にご相談ください）。

Java Ver. 7 がすでにインストールされている場合には、Java のアップデートにより、Ver. 7 を削除しないよう注意します。なお、セキュリティ上の必要がある場合には Oracle 有償サポートを利用することもできます。

またスタンダード版の場合、ユーザーデータ機能以外のすべての機能を Ver. 8 のインストールのみで利用できます。

③ INTERGLAD システムをインストール

- 1) 下記 Web ページを開き、User ID および Password を入力して LOGIN ボタンをクリックします。次に Download をクリックしてダウンロードページを開きます。

<http://www.interglad.jp/interglad7/download/>

上記 Web ページは、ニューガラスフォーラム Web サイトより、INTERGLAD Ver. 7 ページを開き、右欄の INTERGLAD 接続、スタンダード版プログラムダウンロードをクリックすることによっても開くことができます。

- 2) 表示される INTERGLAD Downloads 画面より、Windows 10 (7, 8 も同) の場合には、最新バージョンのインストーラー(interglad-7.*.*-setup-win.exe)を選択し、パソコンに保存後、インストールします。

なお、インストールのために、パソコンのセキュリティソフトを一時停止するか、セキュリティレベルを一時的に下げるなどが必要となる場合があります。例えば Windows 10 で Windows SmartScreen が有効となっている場合には、これを一時的に無効とする必要があります (コントロール・パネルのセキュリティとメンテナンス画面より、Windows SmartScreen の設定の変更を行います)。「Windows によって PC が保護されました」とのダイアログが現れた場合には、「詳細の情報」をクリックし、「実行」をクリックします。

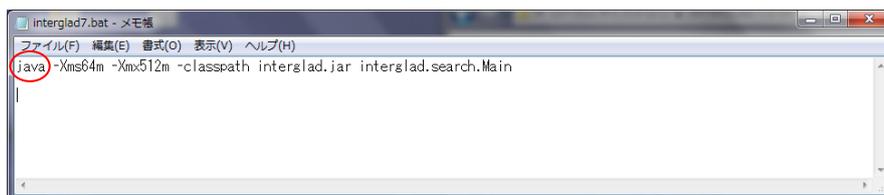
また、使用環境により管理者等の ID、パスワードが必要となる場合もあります。Mac OS X / Linux の場合には、Mac OS X / Linux 用の interglad-7.*.*.zip をダウンロード、展開します。

④ Java Ver.7 使用の場合には、[interglad7]バッチファイルの書き換え

この書き換えは、パソコン OS が 32bit で Java Ver. 7 と Ver. 8 を併用している場合、また OS が 64bit の場合には、Java Ver. 7 と Ver. 8 を併用しているかどうかにかかわらず必要となります。Java Ver. 8 使用の場合には必要ありません。

- 1) デスクトップに表示された [INTERGLAD 7.6] アイコンを右クリックして [編集] を開きます。
- 2) [interglad7]バッチファイル (interglad7 - メモ帳) の記載内容を書き換えます。
システムインストール時 (書き換え前、下図)

```
java -Xms64m -Xmx512m -classpath interglad.jar interglad.search.Main
```



冒頭の [java] を下記に書き換えます。

パソコン OS が 32 ビットの場合、

"c:\Program Files\Java\jre7\bin\java.exe" ("も含める、スペース半角)
パソコン OS が 64 ビットの場合、

"c:\Program Files (x86)\Java\jre7\bin\java.exe" ("も含める、スペース半角)
変更内容を保存します。これにより、インストール・設定が終了しました。なお、本
操作にはマニュアルの pdf よりのコピー&ペーストが便利です。文字コードは ANSI
とします ([ファイル]→[名前を付けて保存]より確認・変更ができます)。

⑤ INTERGLAD 起動

デスクトップに表示された [INTERGLAD7.6] アイコンをダブルクリックすると
INTERGLAD システムが起動し、メイン画面が開きます。User ID、Password を要求
するダイアログが現われますので、User ID、Password を入力し、[OK] ボタンをクリ
ックします。Java Ver. 8 使用の場合には、「Cannot connect local database. . .」の
ダイアログが 4 回現れますので、それぞれに「OK」 ボタンをクリックします。また画
面上部のアイコンから Preference 画面を開き、INTERGLAD Data の Server を選択
します。

以上の操作でインストール・設定が終了し、検索等の操作が実行できます。なお、
Java Ver. 7 使用の場合には、上記の「Cannot connect local database. . . .」のダイ
アログは現れません。User ID、Password の入力は、INTERGLAD システムの起動毎
に必要となります。

⑥ Java Ver. 8 対応暫定版の利用

Java Ver. 8 使用の場合にもフル機能が利用できるよう検討中であり、その暫定版を
使用できます。本暫定版は、ODBC データベースへのアクセス機能を JDBC、
UCanAccess により補完したもので、ユーザーデータ登録・変換以外のすべての機能が
利用できます。既登録のユーザーデータはサーバーデータと一緒に検索また予測に使
用することができます。

本システムを利用する場合には、まず③ 1)に記載された方法により INTERGLAD
Download 画面を開き、[INTERGLAD の利用環境 (Java 実行環境)] をクリックしま
す。次に、このページの 2 (2)に記載の INTERGLAD7.5b (Zip Binary)をダウンロード
します。"interglad-7.*.*.0b.zip" セットアップ手順はそのページに記載されています。

本暫定版の立ち上げはデスクトップに作られた [interglad7] バッチファイルのショ
ートカットアイコンをダブルクリックすることにより行います。最初の立ち上げにのみ
多少時間を要します (10 分程度)。

3. CD フル機能版利用

① パソコン OS (オペレーティングシステム) 確認

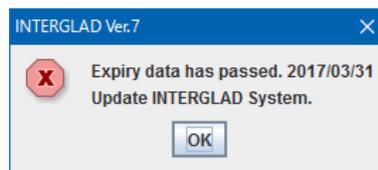
パソコン OS が 64bit 版か 32bit 版かを以下により確認します。コントロールパネル
のシステムとセキュリティを開き、システム画面を開くと、システムの種類が 64 ビッ

にダウンロード、展開し、[interglad7]バッチファイルをダブルクリックすることによりシステムを立ち上げます。最初の立ち上げにのみ多少時間を要します（10分程度）。

特に関連する箇所です（赤枠部）

4. スタンダード版、CD 機能版のアップデート方法

スタンダード版の場合、メイン画面のメニューバーの[Help]より[Check Update]をクリックし、[INTERGLAD Downloads]ページを開き、新バージョン（7.*.*）がある場合にアップデートを行います（下記②～⑩の操作）。また「使用期限が過ぎています」（下図）とのダイアログが現れた場合には、下記①～⑩の操作によりアップデートを行います。



- ① ニューグラスフォーラムのウェブサイトより INTERGLAD ページを開き、画面右のメニューより INTERGLAD 接続の[スタンダード版システムダウンロード]をクリックします。次に User ID、Password を入力し、[LOGIN]をクリックし、さらに[Download]をクリックします。
- ② 開いた [INTERGLAD Downloads] ページの最新 Version の INTERGLAD 7.* Software Downloads よりパソコンの OS に合った INTERGLAD システムのインストーラー（Windows 7、8、10 の場合、interglad-7.*.*-setup-win.exe）を選択し、パソコンにダウンロードし、保存します。Java Ver. 8 対応暫定版を使用することもできます（2. ⑥参照）。
- ③ ユーザーデータにデータ登録がある場合（登録がない場合には④へ）、アップデートの前に、必ずユーザーデータファイル(GP_user_7*.mdb)をバックアップします。ユーザーデータファイルは、デフォルトの場合、以下に保存されていますので、[INTERGLAD7.0]フォルダからデスクトップなどに移します。
Windows Vista、7、8、10 の場合、C:¥INTERGLAD 7.0¥GP_user_7*.mdb
(Windows XP の場合、C:¥Program Files¥New Glass Forum¥INTERGLAD 7.0¥GP_user_7*.mdb)
- ④ コントロールパネルからプログラムのアンインストールまたは変更を開き、[INTERGLAD7.*]をアンインストールします。アンインストールを行わずにアップデートを行うと途中でエラーとなります。
- ⑤ ユーザーデータ機能を使用する場合には、Java Ver. 7 (32bit 版) が必要なため、Ver.7 がインストールされていない場合にはインストールします。ユーザーデータ機能（変換、登録、検索等での使用）以外のすべての機能は Java Ver. 8 (32bit 版)がインストールされていれば使用できます。（1. ②参照）
- ⑥ ①で保存したインストーラーをダブルクリックし、PC へのインストールを行います。

- ⑦ Java Ver. 7 使用の場合には、[interglad7]バッチファイルを書き換えます（ 2. ④参照）。
- ⑧ 新たにインストールした[INTERGLAD 7.0]フォルダ中に②で保存した GP_user_7*.mdb を入れます（Ver. 7.5 以前、*が 5 以下の場合）。保存したファイルが GP_user_76.mdb の場合には、新たな GP_user_76.mdb をフォルダからデスクトップ等に出し、保存したファイルと差し替えます。
- ⑨ ユーザーデータが GP_user_7*.mdb（Ver. 7.5 以前） の場合には Ver. 7.6(76)への変換登録をします(第 4 章 6.1 (2) (F)参照)。
- ⑩ デスクトップの[INTERGLAD 7.*]アイコンをダブルクリックして INTERGLAD を起動します。メイン画面より環境設定(Preference)小画面を開き、Local Database および User Database の[MDB File]欄に最新のファイルを選択して入れ、[OK]ボタンをクリックします。

CD フル機能版の場合にも、新たな Version の CD を NGF より受領したとき、上記の①～⑨の操作を行います。この場合、①の INTERGLAD システムのインストーラーは、NGF より送付された新たな CD 中のインストーラー(interglad-7.*.*-sa-setup-win.exe)となります。②、③、⑦の[INTERGLAD 7.*]は[INTERGLAD 7.* SA]となります。⑨の[INTERGLAD 7.*]アイコンは、[INTERGLAD 7.* SA]アイコンとなります。

5. 新 INTERGLAD サーバーへの移行に伴う接続先変更方法

INTERGLAD サーバーが 2017 年 5 月 23 日より新サーバーに変わりました。このため、以前よりのスタンダード版を使用の場合、接続先 IP アドレスの変更が必要となります。変更を行わないとスタンダード版の使用ができません。

- ① スタンダード版を立ち上げ後、ダイアログ ”Cannot Connect INTERGLAD Server. Setup Network Configuration?” が現れた場合には、ダイアログの OK ボタンをクリックし、環境設定(Preference)小画面を開きます。
- ② 環境設定小画面の Server Database の Server URL 3 カ所を 61.194.5.20 より 153.121.91.149 あるいは www.interglad.jp に入れ替えます（画面図参照）。
- ③ OK ボタンをクリックします。

上記操作は 1 回行えばよく、INTERGLAD を使用する毎に行う必要はありません。

なお、インターネット版利用の場合には、java 例外サイトへの <http://153.121.91.149> あるいは <http://www.interglad.jp> の追加が必要となります。1. を参照ください。

環境設定小画面
<変更前>

INTERGLAD 7: Preference

INTERGLAD: Preference

DB Site
 INTERDLAD Data
(Server Local)
 User Data

Language
 English
 Japanese

Default Unit & Max Data
Component Unit: mol%
Property Unit: Common
Max Data: 1000

Network Connection
 Direct Connection to the Internet:
 Proxy Configuration: HTTP Proxy: Port: Advanced

Server Database
Server URL (Authentication): 61.194.5.20
Server URL (Glass Property): 61.194.5.20/gp
Server URL (Glass Structure): 61.194.5.20/gs

Local Database
MDB File (Glass Property) (ODBC: GP_LOCAL): C:\INTERGLAD 7.0\GP_32_2017.mdb Select
MDB File (Glass Structure) (ODBC: GS_LOCAL): C:\INTERGLAD 7.0\GS_25_2017.mdb Select

User Database
MDB File (Glass Property) (ODBC: GP_USER): C:\INTERGLAD 7.0\GP_user_76.mdb Select
MDB File (Glass Structure) (ODBC: GS_USER): C:\INTERGLAD 7.0\GS_user_70.mdb Select

Default Search Condition File
File (Glass Property): Select
File (Glass Property, Regression Analysis): Select
File (Glass Structure): Select

Default Folder
Folder (Open and Save Files): Select

OK Cancel

<変更後>

Server Database
Server URL (Authentication): 153.121.91.149
Server URL (Glass Property): 153.121.91.149/gp
Server URL (Glass Structure): 153.121.91.149/gs

あるいは

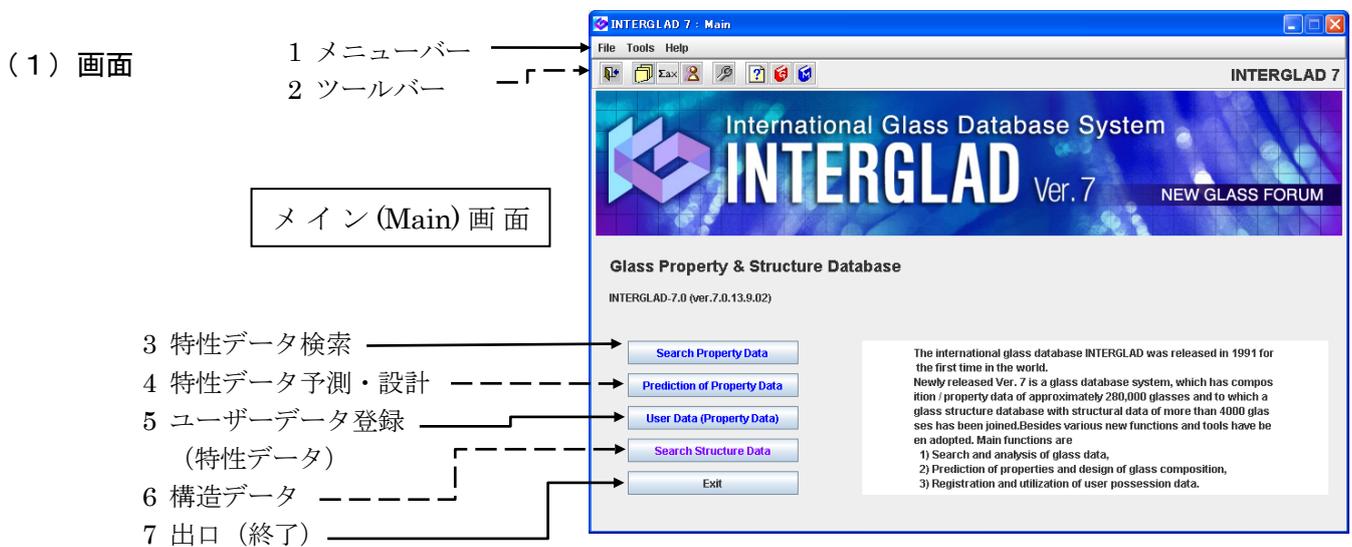
Server Database
Server URL (Authentication): www.interglad.jp
Server URL (Glass Property): www.interglad.jp/gp
Server URL (Glass Structure): www.interglad.jp/gs

小数点にはカンマ(,)を使用せず、ピリオド(.)を使用してください。
入力後 **Enter** キーを押して確定します。

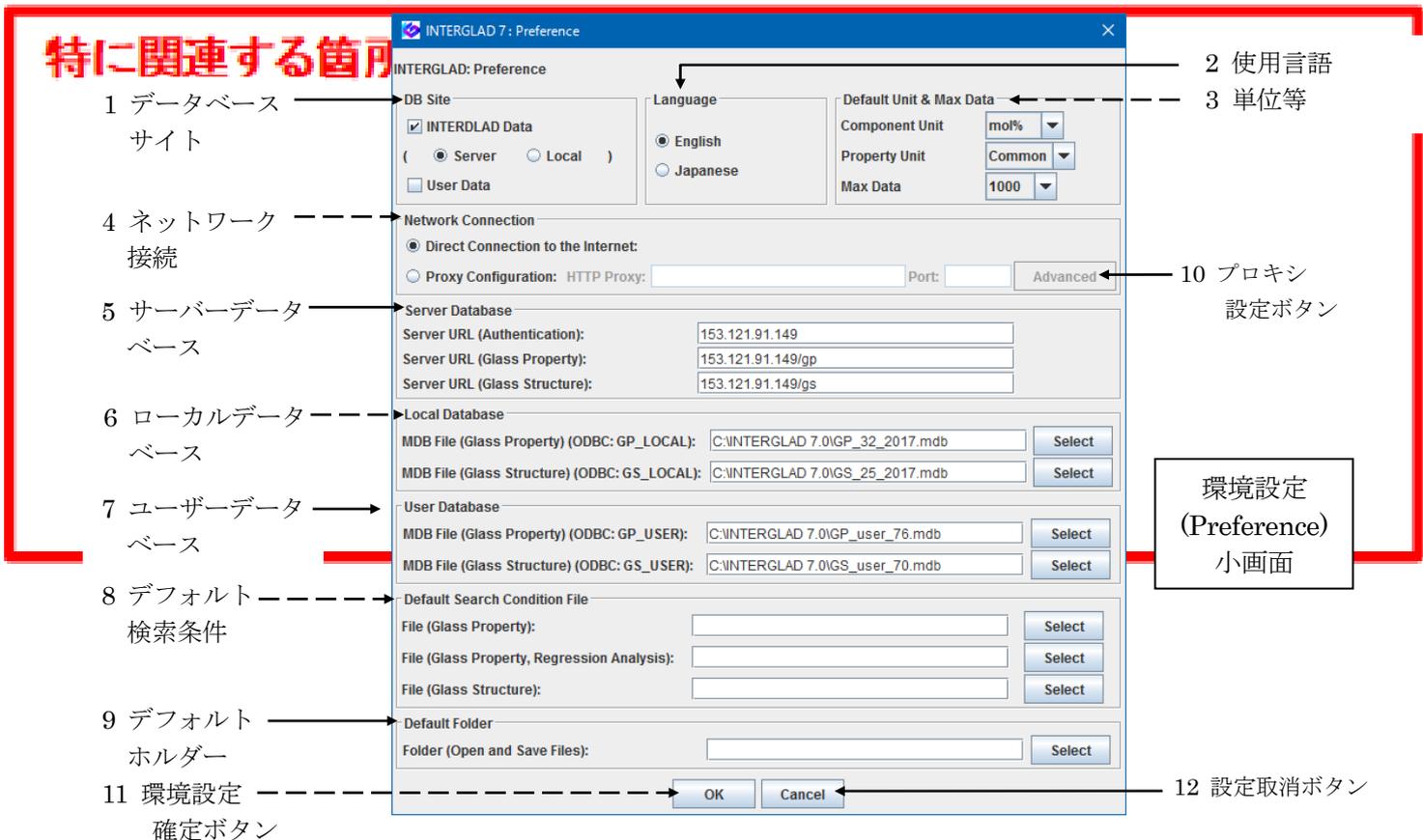
- 小画面選択 (水色) : ダブルクリックで表示される小画面からクリックして選択します。
- プルダウンメニュー選択 : 右端の[▼]をクリックすると、選択項目のリストが表示されるので、選択したい項目をクリックします。
- チェックボックス選択 : オン() / オフ()を表わします。クリックによりオンオフを切替えます。また、項目にマウスポインターを当てると項目説明が現れます (すべてではありません)。画面右上の×印をクリックすると、画面が閉じられます。

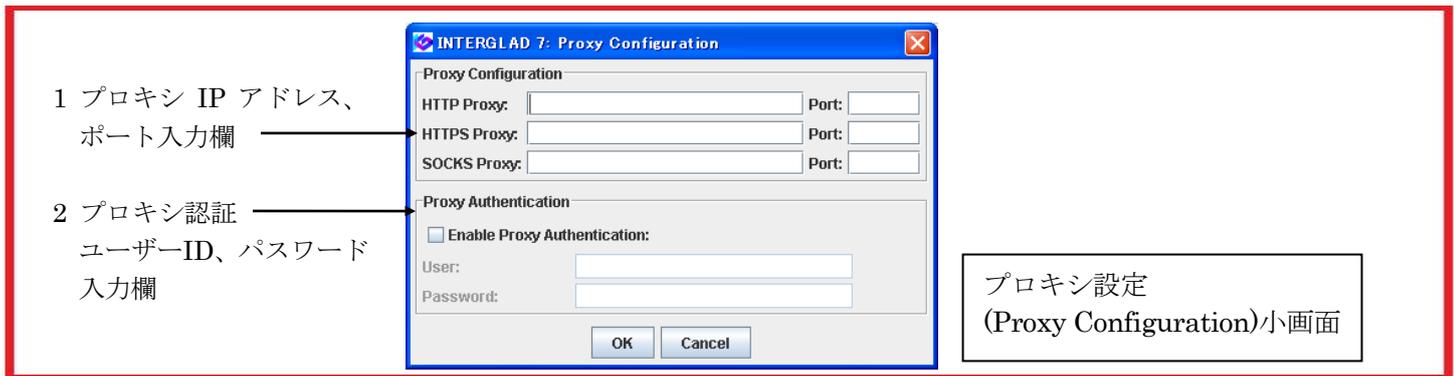
1. 2 メイン (Main) 画面

INTERGLAD Ver.7 起動後にメイン画面が表示されます。



特に関連する箇所





(2) 詳細説明

メイン画面の各ボタンをクリックすることにより、実施したい検索・予測等の画面が開きます。EXIT ボタンのクリックにより、INTERGLAD システムが終了します。メニューバーの Tools から Contents of Property Data、Contents of Glass-Forming Region、Contents of Structure Data をクリックすることにより、それぞれの収録データ数を知ることができます。Contents of Property Data からは、全ガラス数（組成等のデータセットの数）の他、リストを展開していくことにより、ガラス状態、外観・特徴・製法、用途、出典、成分、ガラス汎用名（系）、特性の各項目別のガラス数を知ることができます。Contents of Structure Data からも、全ガラス数の他、ガラス状態、形状、測定方法、出典、成分、ガラス汎用名（系）、構造情報の各項目別のガラス件数を知ることができます。また、Contents of Glass-Forming Region からはガラス化範囲データが収録されている 2 成分あるいは 3 成分の組成系の数を知ることができます。また、Help から Check Update をクリックすることにより、新バージョンを確認・ダウンロードできる Web ページに進むことができます。

また、ツールバー中の環境設定 (Preference) アイコン をクリックすると環境設定 (Preference) 小画面が表示され、環境 (初期条件) を設定できます。各条件を設定後、OK ボタンをクリックして画面を閉じます。Cancel ボタンをクリックすると、設定条件はすべてその設定前に戻り、画面が閉じられます。以下、環境設定小画面につき説明します。

① データベースサイト ⇔ 環境設定小画面 1

- INTERGLAD データ使用の場合、サーバー (Server) かローカル (Local) のラジオボタンをクリックします。サーバーDB はニューガラスフォーラムの INTERGLAD サーバー中のデータベースで、常に最新の更新データを利用可能です。ローカル DB はプログラムのダウンロードあるいは CD よりパソコンにインストールされたデータベースです。ローカル DB は少なくとも年 1 回更新されます。
- INTERGLAD データおよびユーザーデータの両方を使用の場合には、ユーザーデータ (User Data) のチェックボックスもクリックして✓を入れます。ユーザーDB はユーザーにより INTERGLAD に登録されたデータのデータベースで、登録パソコンでのみ利用可能です。
- ユーザーデータのみを使用する場合には、ユーザーデータのチェックボックスのみに✓を入れます。

② 使用言語 ⇔ 環境設定小画面 2

- 英語、日本語の内、使用したい言語のラジオボタンをクリックします。

③ 単位等 ⇔ 環境設定小画面 3

- 成分単位(Component Unit)をプルダウンメニューより選択してクリックします。
- 特性単位 (Property Unit) を選択します。デフォルトの Common はそれぞれの特性で一般的と考えられる汎用単位です (第 6 章 5.1 特性データベース ID リスト参照)。
- 検索データ最大数を選択します。
- デフォルト (初期設定) 値で良い場合には、設定の必要はありません。
- これらの選択は検索画面でもできます。

④ ネットワーク接続(Network Connection) ⇔ 環境設定小画面 4, 10、プロキシ設定小画面

- インターネット直接接続の場合には、Direct Connection to the Internet を選択します。
- プロキシ使用の場合には、Proxy Configuration を選択し、プロキシ設定(Advanced)ボタンをクリックすると、プロキシ設定小画面が開きます。この小画面で、IP アドレスおよびポートをインプットします。プロキシ認証が必要な場合には、Enable Proxy Authentication チェックボックスをチェックし、ユーザーID およびパスワードを入力し、最後に OK ボタンをクリックします。

- ⑤ サーバーデータベース(Server Database) ⇔ 環境設定小画面 5
- ・検索対象となる特性および構造データベースサーバーを確認、また変更できます。通常は操作の必要はありません。
- ⑥ ローカルデータベース (Local Database) ⇔ 環境設定小画面 6
- ・検索対象となる特性および構造ローカルデータベースを確認、また変更できます。選択(Select)ボタンをクリックし、[開く]小画面を開き、通常、最新のデータベース mdb ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。通常は操作の必要はありません。ローカルデータベースとして ODBC 設定されたファイル名が表示されます。プログラムをアップグレードした際には、新たに ODBC 設定が必要になる場合があります。
- ⑦ ユーザーデータベース(User Database) ⇔ 環境設定小画面 7
- ・登録および検索対象となる特性ユーザーデータベースを確認、複数設定の場合に選択、また保管場所の変更ができます。通常は操作の必要はありません。
- ⑧ デフォルト検索条件(Default Search Condition File) ⇔ 環境設定小画面 8
- ・保存された検索条件の内からデフォルト (初期設定) とする検索条件を選択できます。Select ボタンをクリックし、検索条件ファイルを選択してクリックします。
 - ・特性、特性/重回帰分析、構造のいずれについても設定できます。
- ⑨ デフォルトフォルダ(Default Folder) ⇔ 環境設定小画面 9
- ・検索・解析等のデータを保存するデフォルトフォルダを選択できます。Select ボタンをクリックし、デフォルトとするファイルを選択してクリックします。